

令和 6 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (5) 地域への文化発信の拠点となる取り組み

申請組織 An die Musik 実行委員会 (教育学部)

申請組織長 役職名 教育学部長 氏名 磯部錦司

統括責任者 役職名 教授 氏名 小杉裕子

課題名 卒業生と教員によるコンサート ～音楽に寄せて～

事業組織	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
	統括責任	小杉裕子	教育学部・教授	企画運営・ピアノ演奏
	分担者	池田京子 渡邊 康 筒井紀貴 澤田幸江 久野 薫 青木園恵	教育学部・特命教授 教育学部・准教授 教育学部・講師 教育学部・非常勤講師 教育学部・非常勤講師 教育学部・非常勤講師	企画 運営・学生指導 ピアノ演奏 ヴァイオリン演奏 ソプラノ演奏 ピアノ演奏

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

平成 21 年第 1 回 山女学園大学教育学部室内楽演奏会「連弾からアンサンブルへ」を開催した。以来、毎年演奏会を行い、第 3 回目より教員のほかに第 1 期卒業生が参加する「卒業生と教員によるコンサート」として開催している。卒業生が教師という職業をとおして次世代に対する音楽教育を継続しながらも、自己研鑽の機会を提供し音楽発信力を支援する目的で事業を開始した。今回は 15 回目となり、第 2 期から 14 期までの卒業生が演奏に参加した。

児童生徒に音楽を愛する気持ちを育むことは、違いを超えて共に生きる協調性を育むことにつながる。そのために教員は高い技能と音楽性が必要であるが、働きながら技能と音楽性を維持するには、演奏会出演という目標のあることが望ましい。また、在学生在が卒業生や教員の演奏を聴き、憧れや尊敬の気持ちを抱くことができれば、学習意欲の向上や、音楽教員への道を志すきっかけ作りにもなり得るところに、卒業生と教員が同じ舞台に立って演奏発表を行う意義があると考えている。

2. 事業方法 (特色・独創性) 等 (300 字程度で記述)

卒業生、在学生在が教員とともに演奏し、技能と表現の幅を越えてひとつの演奏会を作り上げることに特色がある。大学のカリキュラムは 4 年間で終了する。本学では実技面などに自信がない学生に対しても、少人数教育を生かしそれぞれの独自性を伸ばしているが、従来の大学教育は、卒業生への支援、技能の維持についての関心が薄いのではないかと考える。本活動は、大学教員の演奏技能の向上のみならず、卒業後の演奏技能及び音楽性の向上を意図している点で画期的な意味を持つ。児童生徒が教員を志望する動機は、自分が指導を受けた教員の影響が非常に大きい。卒業生の発表の場は、勤務先の生徒、父兄など社会的な広がり生まれ、また同窓生たちの連携の場となる。さらに在学生在も卒業生や教員と共に舞台に立つことにより、キャンパスの外に一步踏み出し、社会の中で生きた音楽を体験する場について真剣に考えるきっかけとすることも企図している。

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

●2025年2月15日（土）名古屋市中区伏見 電気文化会館ザ・コンサートホールにて午後2時開演、午後3時50分終演

●椋山女学園大学教育学部 卒業生と教員によるコンサート ～An die Musik～ 音楽に寄せて

●入場者数 175名（整理券172名、招待状3名）

●第1部

卒業生6名（第2、4、10、11、14期生）と大学院生1名によるクラリネット独奏、ピアノ独奏、ピアノ連弾、ソプラノ独唱、教育学部音楽コース有志9名（大学院生1名を含む）、卒業生4名、澤田幸江（教育学部・非常勤講師）による弦楽合奏

●第2部

ピアノ連弾 青木園恵（教育学部・非常勤講師）・小杉裕子（教育学部・教授）

ソプラノ独唱 久野 薫（教育学部・非常勤講師）・筒井紀貴（教育学部・講師）

ピアノ独奏 筒井紀貴（教育学部・講師）

●今回初の試みとなった弦楽合奏には学部1年生から8期生が参加した。練習において1年生がよく努力し上達したこと、卒業生が仕事を終えてから日頃の練習に参加してくれたことへの感謝、先輩の演奏に影響を受け感動したことなど、在学生にも貴重な経験となった。

前半の卒業生の演奏は、教職に就き練習時間の余裕も少ないながら努力し、表現したい気持ちの伝わる丁寧な演奏で、音楽コース卒業生のレベルの高さを示した。後半の教員の演奏は、ピアノ連弾においてはサロンのような音楽の楽しみを、ソプラノ独唱では魅力的な歌声と伴奏法の妙を、ピアノ独奏においては輝かしい音楽表現で聴衆を魅了した。

またスタッフとして演奏会に携わった在学生からは、先生方や先輩方にたくさんサポートをもらいつつ、演奏会を支える仕事の楽しさや難しさを感じ、よい経験になったとの声が挙がった。

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①卒業後支援	②教員の質向上	③音楽文化活動	④生涯学習
⑤アウトリーチ活動	⑥情操教育	⑦同窓会活動	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

アフターコロナで演奏会の催行が戻りつつあるが、聴衆が戻ってこないという話を多く耳にする。そのなかで、本公演は例年通りの来場者を迎えることができた。

一般の多く聴衆に支援されることは、椋山女学園大学の地域文化への発信として重要なことであると考えられる。来場者からいただいた感想は、いろいろな楽器のいろいろな演奏形態の演奏を楽しむことができてよかった。前半の卒業生の演奏も上手で、フレッシュで懸命な姿に好感が持てた。弦楽合奏は、ステージ上で練習通りの力を十分に発揮できた。後半の教員による演奏は、一般の方からは、楽器や声の音色や輝きと表現の豊かさが際立つ素晴らしい演奏だった。在学生からは、教員の演奏を誇りに思い自分もますます研鑽に励みたい、等と集約される。

今後とも卒業生と教員が共に作る演奏会を、学びを深化させる機会として、音楽を愛好する聴衆を幅広く育てていく機会として継続していきたい。次回の演奏会に向けて卒業生から出演者を幅広く募り、教員の演奏の充実化など、これまでの課題、反省を踏まえて、企画運営やプログラムを考えたい。昨今の土曜日、日曜日のホールの確保は特に難しく、また教師の仕事を持って出演する卒業生に合った開催時期を決めることも課題である。より内容の充実したものとなるよう取り組んでいきたい。